

東和中学校
2015年 2学期のふり返り

2015.12.24
2学期終業式

紀の国わかやま国体学校観戦
9月25日 ビッグホエール



生徒会役員選挙 (9月29日)
新執行部誕生



3年生 宿泊研修 (修学旅行)
10月19日~21日



2年生 職場体験学習
34事業所 10月19日~21日



1年生 自然体験学習
(飯ごう炊さん・カッター体験)
10月20日 大阪府立海洋センター



持久走大会 11月11日 東公園周辺道路



文化的行事 11月21日

(展示発表・合唱コンクール・公民館活動展示)



和歌山市中学校駅伝競走大会 12月5日 男子Aチーム 3位



生徒の活躍 (運動部 3位以上)

- ☞ 市中学総体
剣道男子団体3位・個人優勝(坂口詩述)
柔道-73kg級3位(東海玖亜)
- ☞ 県中学総体
剣道男子団体3位
- ☞ 市陸上競技選手権大会
男子3000m 1位(松本 悠)
- ☞ 紀美野町ロードレース大会中3女子3km3位(中西綾乃)
- ☞ 第1回吉宗CUP軟式野球 優勝
- ☞ 市中学校駅伝競走大会男子の部
3位 東和中Aチーム
- ☞ 県中学校秋季新体操選手権大会
個人総合3位(桃原 玲)

生徒の活躍 (文化部等)

- ☞ 市英語暗唱大会 審査員特別賞(桑原千鶴)
- ☞ 交通安全イベントコンテスト 優秀賞(美術部)
- ☞ JA共済小・中学校交通安全ポスターコンクール 全共連和歌山県本部長賞(青木真結)
- ☞ 和歌山県ジュニア美術展覧会入選(松本鈴乃)
- ☞ 税の作文入賞(平住直也、川合未稀、西俣平)
- ☞ 紀の国犯罪被害者支援センター絵画コンクール 優秀賞(中林美月)・入選(山本穂乃香)
- ☞ 愛鳥週間ポスター佳作(桃原玲)
- ☞ 「いのちのきずな」エッセイコンテスト 教育長賞(金山伊吹)

学び合いの授業づくり 09/11 2年英語

(協同的な学びのルール)



- ☞ ●グループになったら私語はしない。
- ☞ ●机はしっかりとくっつけて隙間をつくらない(机の隙間は心の隙間)。
- ☞ ●分からない時はグループの人がこぎえる。
- ☞ ●訊かれたら相談に乗ること。話す時は、声のトーンを下げる。
- ☞ ●立ち歩かない。自分のグループで話し合い、他のグループの人とは話さない。
- ☞ ●訊かれていないのに教えることは、その子の学びの邪魔をするようになるから、絶対しない。訊かれて初めて応えるようにする。
- ☞ ●やろうとしない子には「どうしたの?」「やらない?」と声をかける。

きのくに学力定着フォローアップ事業
(アドバイザー来校) 10/29 2年社会



- ☞ 4人1組グループによる学び合い(聴き合う関係)
- ☞ 共有の課題
- ☞ ジャンプの課題
- ☞ 机の間隙を詰めて
- ☞ 教員も学ぶ

①「学び合いの意味」を理解しましょう。

- ☞ グループやペアで人に教えることで自分の理解が深まります。
- ☞ 相手と話すことで違う考えに触れることができます。新しい発見があります。
- ☞ 社会に出ればチームで仕事をします。その時に必ず教えたり教わったりする場面があります。「学び合い」を進めることで、その土台となる力が付きます。

②先生は説明しすぎないようにします。

- ☞ 「学び合い」の授業では、教員は大切なことだけを説明するだけにします。生徒は、分からないことがあれば、友達に聞くことにします。分からないことは恥ずかしいことはありません。分からないことがあれば、「分からないから教えて」と聞ける関係を作ります。
- ☞ これまで教員は、分からない人には全てを教えていましたが、教員の仕事は教えることではなく、生徒に学ばせることなのです。
- ☞ 教員が「説明しすぎない」よう心がけて我慢することで、生徒が自分で調べたり友達に質問したりする習慣が身につきます。

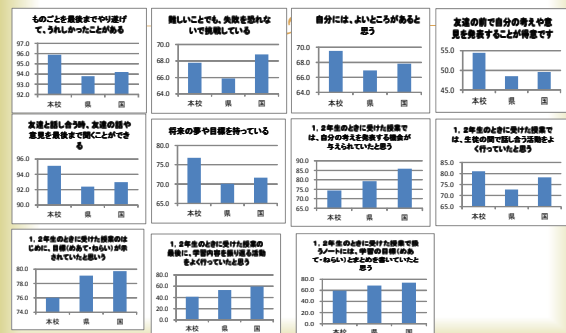
③授業で学んだことを振り返りましょう。

- ☞ 授業が、ただノートを写すだけの時間から、自分の頭で理解しようと考えている時間になってきます。そして、ノートに自分の考えを書くことで考えを整理していくのです。
- ☞ 学び合いの授業では、最後にこの日の授業で学んだことを再度自分の言葉で言ったり書いたりする機会があります。一度聞いて理解しただけでは学習は定着しませんが、授業を振り返ることで、何が分かって何が分かっていなかったのか頭の中やノート上で整理をすることができるのです。自分の考えを整理することで自分と向き合えるのです。

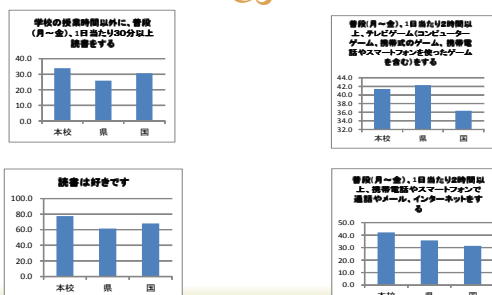
④全ての授業で「学び合い」を入れる必要はありません。

- ☞ 新しい概念を教えたり、基礎的な事柄や用語を教えるときなど一斉授業の形式が効果的なときは、学び合いの形式をとる必要はありません。

「学び合いの授業づくり」の成果
平成27年度全国学力学習状況調査の結果より



本校生徒の良い所と課題

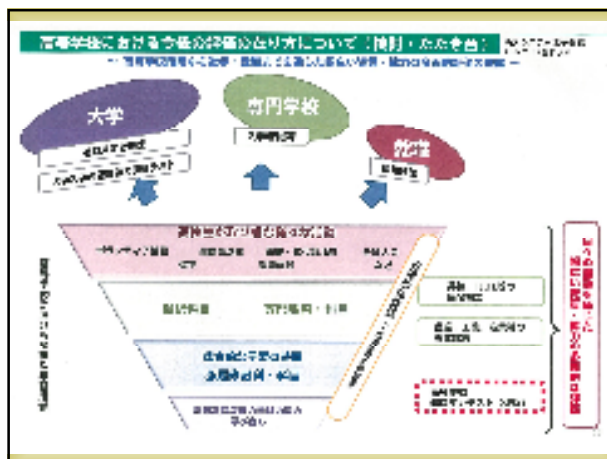


国としての教育改革の流れ

- ☞ 文部科学省 学習指導要領の改訂にむけて(中央教育審議会に諮問 H26.11)
- ☞ 「何を教えるか」から「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視
- ☞ 学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点が重要
- ☞ 「アクティブ・ラーニング」(課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習)という「学び方」そのものを、学習指導要領に盛り込むよう明記

高・大接続の一体的改革

- ☞ 教育の質の確保・向上を図り、生徒の学習改善に役立てるため「高等学校基礎学力テスト」を導入
- ☞ 大学入試センター試験を廃止し、知識の活用力を測る「大学入学希望者学力評価テスト」
- ☞ 各大学も小論文や面接に力点を置いた入試に改革
- ☞ 平成32年(今の中1が高3のとき)に導入
- ☞ 「何を教えるか」ではなく「どのような力を身に付けるか」の観点に立って高等学校の学習指導要領の抜本的見直し
- ☞ 高校では、そうした力を確実に育むため、アクティブ・ラーニングへの飛躍的充実を図る



新共通テスト 「大学入学希望者学力評価テスト」

- ☞ 2020年度 導入(今の中1が高3の時)
- ☞ 採用する記述式問題の「イメージ例」公表(12月23日 各社新聞等)
- ☞ 専門家会議委員の声「高校教育が変わる」
- ☞ 「考え方の違いを理解して意見を述べたり、長い文章を書いたりするトレーニングが必要になる。学校でアクティブ・ラーニング(課題解決型学習)型の能動的な授業を多く取り入れれば、能力はつけられる。」(毎日新聞 河合塾教育研究開発本部副本部長)

- ☞ これまでの勉強は頭の中で完結しがちで、感想や意見を文章にして他人と共有する経験は十分ではない。記述式問題に対応するには、人に伝わるように文章を書く力が要る。短期間で身につけるのは難しく、中学生ぐらいから訓練が必要だ。
- ☞ 必要な数学の知識は中学までの学習内容で解ける設問もある。しかし、思考力や表現力に加え高度な空間把握能力も必要。公式を当てはめる発想で対処するのは難しい。自分の頭で懸命に考える「量より質」の勉強が大事だ。(朝日新聞)

これからの時代を生きる若者への
アドバイス (毎日新聞2015.12.12.)



- ☞ 同志社大ハリス理化学研究所 塚越一彦所長
- ☞ 「無理して覚えようとしないうこと」
- ☞ 覚えるということは、頭を固くしてしまいます。
- ☞ 「考える」を繰り返した結果として残った「記憶」は、理解を早めます。

これからの時代を生きる若者への
アドバイス (毎日新聞2015.12.12.)



- ☞ 女優・作家 中江有里さん
- ☞ 読書を習慣にしていきたい。
- ☞ 想像力や集中力はもちろん、読解力を身につけることができる。
- ☞ 読書とは蓄積です。
- ☞ 読書により自分の中に「考える」ためのベースができる。

3学期 東和の生徒が大きく成長するために



- ☞ 子どもは明るく元気な学校(学級)を求めている。安心して学べる学校(学級)を求めているのです。(佐藤 学)
- ☞ 「学び合いの意味」を理解しルールを守り「学ぶ」こと。
- ☞ 「朝の読書活動」の意義を理解し「読書」を楽しむこと。

協同的な学びのルール



- ☞ ●グループになったら私語はしない。
- ☞ ●机はしっかりとくっつけて隙間をつくらない(机の隙間は心の隙間)。
- ☞ ●分からない時はグループの人に「ここどうするの?」と訊くことができる。
- ☞ ●訊かれたら相談に乗ること。話す時は、声のトーンを下げる。
- ☞ ●立ち歩かない。自分のグループで話し合い、他のグループの人は話さない。
- ☞ ●訊かれていないのに教えることは、その子の学びの邪魔をすることになるから、絶対しない。訊かれて初めて応えるようにする。
- ☞ ●やろうとしない子には「どうしたの?」「やらない?」と声かけをする。

朝の読書の風景



冬休み、「読書する」「考える」



- ☞ 「本」を通して人の知恵をステップにして大きくジャンプできる。「読書」により「考える」ためのベースを作ろう。
- ☞ 自分で「納得」するまでは「わかったふり」をしないで「考え」続けよう。
- ☞ スマートフォン等の利用は最低限度に控えよう。
- ☞ 1月6日、3学期始業式には、347人全員が無事に元気な姿でこの場で、今より大きく成長した姿で出会えることを願います。